

病院の力 実力

福島編 57

今回は眼科の治療を特集する。

一覧表には、「硝子体手術」「白内障の手術（水晶体再建術）」「緑内障の手術」「加齢黄斑変性に対する抗VEGF抗体療法」の各実施件数を掲載し、「小児の専門外来」がある施設は○で示した。特定の分野の手術が多いなど

病院の実力「眼科」

医療機関別2011年治療実績（読売新聞調べ）

| 医療機関名 | 硝子体手術 (件) | 白内障手術 (件) | 緑内障手術 (件) | 抗VEGF 抗体療法 (件) | 小児の専門 外来 |
|--------|--------------|--------------|--------------|----------------------|-------------|
| 福島 | | | | | |
| 県立医大 | 548 | 687 | 34 | 1857 | ○ |
| 南東北眼科ク | 211 | 1276 | 41 | 59 | |
| 今泉眼科 | 139 | 749 | 37 | 38 | ○ |
| 太田西ノ内 | 84 | 490 | 17 | 32 | |
| 寿泉堂総合 | 46 | 241 | 9 | 189 | |
| 竹田総合 | 40 | 275 | 3 | 36 | |
| 北福島 | 0 | 400 | 7 | 0 | ○ |
| 宮城 | | | | | |
| 東北大 | 約700 | 約1000 | 約80 | 180 | ○ |
| 平成眼科 | 347 | 1889 | 58 | 79 | |
| 石巻赤十字 | 114 | 790 | 7 | 209 | |
| 仙台市立 | 47 | 305 | 49 | 28 | |
| 大崎市民 | 39 | 605 | 12 | 39 | |
| 独協医大 | 631 | 1594 | 70 | 371 | ○ |
| 自治医大 | 426 | 683 | 36 | 208 | ○ |
| 栃木 | | | | | |
| 原眼科 | 110 | 1449 | 121 | 143 | |
| 済生会宇都宮 | 97 | 663 | 25 | 0 | ○ |
| 足利赤十字 | 0 | 435 | 4 | 65 | |

「ク」はクリニック。

眼科

施設ごとに特徴があり、医療機関を選ぶ際の参考にした。硝子体手術は、糖尿病網膜症や網膜剥離などに対して行われる。眼科の中でも難度が高い手術とされる。白内障の水晶体再建術は、濁った水晶体を取り除き、人工の眼内レンズに置き換える。日帰り手術を行う施設もある。徐々に視野が狭まる緑内障は、眼圧を下げる点眼薬治療が基本だ。効果が上がらない

手術分野施設ごとと特徴

場合に、レーザー治療や手術が検討される。加齢黄斑変性は、網膜の中心の黄斑部が傷み、視野の真ん中がゆがむ、暗い、といった

た症状が出る。網膜の下の血管から異常な血管が伸びるなどするためだ。「抗VEGF抗体療法」では、異常な血管が伸びるのを

止める薬を眼球に直接注射する。2008年に保険適用され、今では主要な治療となった。小児の専門外来では、眼鏡

をかけても視力が改善されない弱視や、黒目の位置がずれている斜視などを専門に扱っている。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は11月4日「抗がん剤治療」の予定です。

加齢の組織変質で病気に

今泉眼科病院

(郡山市)

菊池通晴 副院長



水晶体はカメラでいえばレンズにあたり、透明でゴムのような弾力がある。網膜はフィルムで、その中心部が黄斑。硝子体は眼球の内部を満たす寒天状組織でクッションの役割を果たす。眼科の病気が主にこれらの組織が加齢などで変質することで起きる。また紫外線の影響も指摘されている。

糖尿病は目にも深刻なダメージを与える。糖尿病網膜症は硝子体にもろい新生血管がクモの巣状に広がって出血し、かさぶたのような増殖膜ができる。進行すると網膜をはがしてしまふこともある。硝子体は加齢で液化化し、縮むことで網膜に穴が空いてはがれるのが網膜剥離だ。網膜剥離はスポーツや打撲などで目に激しい衝撃が加わることで起こる場合もある。いずれも視力低下や蚊が飛んだようなものが見える（飛蚊症）のが特徴で、片方の目ごとに見え方をチェックしてほしい。

主な治療法は手術で、糖尿病網膜症は硝子体に微小な力ツターを入れて新生血管を切る。ここ数年で手術器具が飛躍的に進歩し、切開する傷口も0.5mm程度と従来の半分以下で済み縫合する必要がなくなった。網膜剥離は硝子体に空気を送り込んで網膜を押しつけ、レーザーで穴を塞ぐ。

小児の斜視や弱視は、3歳児健診で見つかる場合が多く、幼いうちに眼鏡で矯正すればおおむね治る。ただ3歳児健診で分からず、就学時健診で見つかったと完治は難しくなる。4歳になったら一度、診てもらったことを勧めたい。

白内障は水晶体が濁る病気で、手術で人工の眼内レンズに交換する。眼科医にとって入門的な手術だが、それは患者が70歳代までの話。最近では80〜90歳代の患者も多く、水晶体を両端でつる「チン支帯」という組織が弱まり、水晶体を取り除く際に切れて硝子体の中に落ち込んでしまう。そのうなると水晶体を細かく砕く必要がある、難易度が格段に上がる。糖尿病網膜症の手術もそうだが手がけられる医師は限られ、情報収集して病院

を選ぶほしい。加齢黄斑変性は黄斑に血管のこぶができてものがゆがんで見え、視力が低下する病気で、患者は70歳代以上が多い。白目から薬剤を注射するのが一般的だ。緑内障は、今ではよく効く目薬が開発され、ほとんどの患者は手術を受けなくて済むようになった。眼圧が21mmHg以上や、視野が狭くなると要注意だが、「正常眼圧緑内障」の患者も多く、眼底撮影をしなければ見つけづらい。遺伝的要素もあるとされるが、40歳を過ぎたら一度、受診してほしい。

小児の斜視や弱視は、3歳児健診で見つかる場合が多く、幼いうちに眼鏡で矯正すればおおむね治る。ただ3歳児健診で分からず、就学時健診で見つかったと完治は難しくなる。4歳になったら一度、診てもらったことを勧めたい。